

Movement Assessment Battery for Children-Second Edition(MovementABC-2)

開発の経緯

Movement ABC は 1992 年に Henderson と Sugden によって開発され、子どもの協調運動を測定する標準化された検査として広まりました。テストとチェックリスト、介入マニュアルから構成されます。テストは粗大運動と微細運動の両面を測定できるようになっており、チェックリストは教師や臨床家など子どもの指導にかかわる専門家が、子どもの協調運動の状態を評価するために作成されました。2007 年に改訂版の Movement ABC-2 が開発されています。

評価の方法

《テスト》 対象:3 歳～16 歳(Age band①3～6 歳②7～10 歳③11～16 歳)

各得点を年齢に応じた Standard Score(SS)に換算→協調運動障害の有無を判定

領域 項目	手先の巧緻性	ボールスキル	バランス
	・片手の目と手の協調 ・両手の目と手の協調 ・書字・描画	・捕球 ・投てき	・静止立位 ・線上歩行 ・ジャンプ

《チェックリスト》 対象:4 歳～12 歳

セクション A+B= Total Motor Score(高いほど運動に困難さを示す)

セクション	A:動的環境	B:静的環境	C:行動特性
項目	・セルフケアスキル ・学習スキル ・レクリエーションスキル	・セルフケア・学習スキル ・ボールスキル ・レクリエーションスキル	・注意散漫 ・衝動性がある ・消極的 など

信頼性・妥当性

各項目の検者間信頼性は ICC(2,1)=0.92～1.00 と高い値を示し、検者内信頼性はジャンプの課題において ICC(1,1)=0.52 と低い値となり、その他は ICC(1,1)=0.73～0.92 であったと報告されています。妥当性については、グッドイナフ人物画テストと手先の巧緻性に関する課題について中等度の相関が認められています。また、Movement ABC で協調運動障害と判定された子どもを MovementABC-2 で再評価した結果、全員が協調運動障害に該当したと報告されています。

結果の活用方法

MovementABC-2 の最大の長所は、運動パフォーマンスについて【テスト】によって測定される量的な結果だけでなく、【チェックリスト】によって評定される質的な情報も得られることにあります。これによって幅広い視点から情報を得ることができ、場面や状況が変わっても対象児の運動困難を評価することができます。そして、その結果を運動困難が疑われる幼児や児童の教育的介入や指導に結び付けることができると考えられます。

使用例

Movement ABC-2 を用いた研究はまだ少なく、Movement ABC を使用した研究について紹介すると、発達性協調運動障害に関する調査、検討に使用されることが多いです。花井(2009)は 6 歳から 12 歳までの 45 名のアスペルガー症候群(AS)児を対象に Movement-ABC を実施した結果、AS 児はすべての年齢層で大半の下位検査において協調運動障害を表す得点を示し、コントロール群との比較において有意に高い得点を示したと報告しています。また、発達性協調運動障害以外にも用いられ、平田ら(2011)はチェックリストを知的障害児・者の行動特性の評価に用いており、渋谷(2010)は健常幼児における不器用さの調査に利用しています。

【原典】Henderson S, Sugden D: The Movement Assessment Battery for Children . Psychological Corporation:1992